

国立国語研究所学術情報リポジトリ

ノンネイティブ日本語教師はコーパスでどのように
日本語を調べるか：
コーパスを用いた課題の分析から

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese (BCCWJ), Tsukuba Web Corpus 作成者: 清水, まさ子, 木田, 真理, KIDA, Mari メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001691

ノンネイティブ日本語教師はコーパスで どのように日本語を調べるか -コーパスを用いた課題の分析から-

清水 まさ子 (国際交流基金日本語国際センター) †

木田 真理 (国際交流基金日本語国際センター)

‘How Do Non-Native Japanese Teachers Use Corpus? An Analysis through the Task They Did’

Masako Shimizu (The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa)

Mari Kida (The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa)

要旨

筆者らは将来的に、ノンネイティブ日本語教師(以下、NNT とする)がコーパスを用いて日本語を学んでいく授業を開発しようと考えている。本発表は、このような授業の開発にあたり、実際に NNT がコーパスを用いて興味のある語を調べた際に、彼らがどんな発見をし、どんな所ですみずくのか調べる、いわば授業開発のためのパイロットスタディである。

本調査の結果、NNT はコーパスを使用することによって、対象語の新たな用法やレジスター、またはどんな時に使用するのかについての発見をしていた。しかし、そもそも検索対象語を正しく認識していない場合や、検索結果の解釈の誤りなど、NNT ならではの問題も確認された。

本発表ではこのような調査の結果と考察をもとに、NNT がコーパスを使用する際に踏まえるべき点を示した。

1. はじめに

日本語教育においてコーパスは、教師、学習者両者にとって非常に有効なものであることは言うまでもない。教師や学習者の日々の授業や学習を助けるツールとしてその使用は数多く報告されているが、実際に学習者がコーパスを動かしながら学んでいく、いわゆるデータ駆動型の授業実践は、その有効性が報告されているにもかかわらず、日本語教育の分野ではまだ少ない。

発表者らは将来的に、ノンネイティブ日本語教師研修において、研修参加者自らがコーパスを用いて、興味ある語を調べ、考え、分析するという、自律的及び探索的な授業を開発しようとしている。

本発表では、開発途上にある授業実践において、実際に NNT がコーパスを用いて自律的及び探索的に興味ある語を調べた際に、彼らがどんな発見をし、どんな所ですみずくのか調べる、いわば授業開発のためのパイロットスタディである。

2. 先行研究

コーパスを用いた授業実践例については、日本語教育以外に国語教育、英語教育等でも報告されている。国語教育では例えば、青空文庫と全文検索システム「ひまわり」を使い、「よう(ようだ・ような・ように、など)」を検索し、結果を分類し表などにまとめて発表する、といった実践が報告されている(鈴木 2015)。また英語教育でも、初級や上級の英語授業におい

†Masako_Shimizu (アットマーク) jpf.go.jp

て、日英パラレルコーパスを用いて学習者自らが学ぶ実践が報告がされている(中條ほか 2006,西垣ほか 2010)。

日本語教育においてコーパスは、教師は例文作りの参照にしたり(中俣 2017)、シラバスデザインに役立てたり(庵ほか 2015)と、言うまでもなく幅広く活用されているが、先述したような、実際に学習者がコーパスを動かしながら学んでいくような実践は、まだ少ない。

ただ日本語教育の分野でも、その有効性と可能性は報告されている。寺嶋(2011)は、大学で学ぶ上級学習者を対象に、漢字語彙指導の際に、コーパスと漢字学習支援ツールを用いて、ターゲットとする漢字語について、コロケーション情報やコロケーションを用いた例文を書き出すという実践を報告している。そしてこのようなコーパスを学習者自らが使用する学習は、「オーセンティックな言語に大量に触れること」ができ、「学習者の疑問を解決するための新たなストラテジーにもなる」(p101)と述べている。

このような学習の可能性は、NNT を対象にする研修にとっても有効であると考えられる。木田・山本(2018)では、海外で日本語を教える NNT は、日本語について疑問が生じても周囲に疑問を解消する人的、物的リソースが少ない場合も多く、自律的に教授上の問題点を解消していかなければならない。そのため、日本語を自ら分析していく力が必要であると述べた。NNT に対するコーパス使用の可能性は、砂川(2012)でも述べられており、母語話者並みの直感を持たない NNT は、コーパスを使用することによって、その不足分を補えるとしている。

3. 本発表の目的

先述したように学習者自らがコーパスを使用していく授業実践報告では、その有効性や可能性が示唆されていた。海外で教える NNT に対しての研修でも、このような実践は有効であると考えられるが、今まで NNT に対してこのような実践を行った報告は、管見の限りない。

そこで本発表は、NNT がコーパスを自ら使用して学んでいくようになるには、どのような授業を行えばよいのかを検討するために、まずは簡単な紹介のみでコーパスを用いて調べたいことを自由に検索してみる授業を行う。そして、その授業で提出した課題において、NNT が実際にコーパスを使用して学習していく際に、どのような語を調べ、どのような過程を辿って何を発見し、さらには、どんなことでつまづくのか、といったことを探る。

4. コーパスを用いた探索活動の概要

以下に、1) 本発表で調査対象とした NNT の概要、2) 調査対象者・調査期間、3) コーパスを用いた授業の内容、4) 今回調査対象とする NNT から提出された課題の内容、について述べる。

4.1 NNT の概要

文化庁(2016)によると、国内の日本語学習者数は 217,881 人、日本語教師は 37,962 人であるのに対し、国際交流基金(2015)によると、海外における日本語学習者数は 3,665,024 人、日本語教師は 64,108 人である。海外における日本語学習者と教師数は国内に比べて非常に多く、特筆すべきは、海外における日本語教師は 70%以上が NNT である点である。

NNT の特徴としてはいくつか挙げられるが、その中でも木田(2004)は、NNT は教師であると同時に学習者であるとし、文法の明示的知識や文法指導といった「教師の文法」と、文法学習や文法知識、文法知識の活用といった「学習者の文法」とが混在しているとしている。

4.2 調査対象者・調査期間

調査対象としたのは、国内にある NNT のための研修施設において、若手日本語教師を対象としている「海外日本語教師長期研修」（以下、長期研修）の参加者である。最上位または、上位から 2 番目のクラスで、対象人数は 43 名。調査期間は 2015 年から 2017 年度にかけてである。各年度の研修参加者の平均的な日本語運用力は、日本語能力試験 N2 以上（ACTFL OPI では、上級以上、CEFR 共通参照レベルでは B1 以上に相当する場合が多い）であり、その国籍は以下である。

インドネシア 2、カンボジア 2、タイ 4、ベトナム 3、モンゴル 2、ハンガリー1、メキシコ 1、フィリピン 2、ミャンマー7、インド 3、スリランカ 1、米国 1、アルゼンチン 2、ブラジル 1、ウクライナ 1、ウズベキスタン 1、ジョージア 1、ブルガリア 3、ロシア 3、トルコ 1、イラン 1 （21 ヶ国）

4.3 コーパスを用いた授業の内容

コーパスを用いた授業は、2015-16 年度においては、日本語科目にあたる「文法演習」の中のテーマの一つとして、2017 年度においては、教授法の「文字・語彙指導」の中で行われた。1 回 3 時間の授業内容は、以下である。なお、日本語コーパスというものの存在について事前に知っていた参加者は、43 名中 2~3 名とわずかであり、大多数は、初めての利用者であった。

- ・コーパスとは何か(コーパスの定義)
- ・コーパスの種類（書き言葉コーパス、話し言葉コーパス、学習者コーパス）
- ・コーパス開発の歴史（アメリカのブラウンコーパス、イギリスの BNC など）
- ・BCCWJ「少納言」の概要
少納言の説明画面（<http://www.kotonoha.gr.jp/shonagon/>）から、「検索にあたっての注意点」「利用法」「検索対象となっているサンプル」「サンプルの長さ」「サンプルの選択基準」などの情報を読み取って理解の確認をする。
- ・NINJAL-LWP FOR BCCWJ（以下、NLB とする）の概要を、「NLB とは」「使い方」などの説明画面（<http://nlb.ninjal.ac.jp/>）から情報を読み取って理解の確認をする。
- ・言葉の使用実態について調べる以下の練習をクラス全体で行って結果を確認する。
(例：メガネとめがね、表すと表わす、玉子 卵 たまご タマゴ や卵焼き 玉子焼きなどの表記の違い)

4.4 今回調査対象とする NNT から提出された課題の内容

上記の授業の後に、以下の課題を出し、数週間後に回収し、これらを今回の調査対象とした。

<p>使用した方を●で示してください： 少納言 / NLB</p> <p>検索対象語 _____</p> <p>検索方法・問題点：</p> <p>わかったこと・興味深いと思ったこと：</p>

今回、NNT がどのような語を分析対象として選び、どのような過程を経て何を発見するのか、またどのような点でつまづくのかを見るために、以上のような分析自由度の大きい課題にした。

また、研修の全体カリキュラム上、コーパスの使用に関する十分な説明と練習の時間をとれない状況であること、形態素の理解などが伴わない日本語力であること等の理由で、今回は NNT でも利用しやすいと考えられる少納言と NLB に限った。

5. 結果

本発表では、4.4 で提出された課題の中から、1) 調査動機、2) 調査された語、3) 調査課程の分析を行う。

5.1 調査動機

語の調査欄に、調査動機を書いた NNT もいた。以下、その動機をいくつかに分けた。大きく分けて、「母語に日本語に該当する意味がないため」「教育上で疑問に思っ」「どのような場面、言葉と一緒に使われるのか確認したかったため」「その他」に分類できた。以下に、その例を記す。以下、NNT の例は原文のままである。

【1. 母語に日本語に該当する意味がないため】

- (1) 「なかなか」はインドネシア語に訳したら、適当な言葉はありませんから、もっと知りたいです。話し手によって、いい意味もあるし、あまりよくない意味もありますから、使いにくいと思います。
- (2) 「なんとなく」はいつも聞いている言葉ですが、正しい使い方を知りたいです。インドネシア語に訳したら、適当な言葉はありませんから、もっと知りたいです。

【2. 教育上疑問に思っ】

- (3) この「あいだに」と「あいだは」の違いは学生さんによく聞かれて、自分でもよく迷った文型ですから、探そうと思いました。
- (4) 初級の教科書では「動詞辞書形+つもりです」という形のみで導入されていますが、「ooつもりで」、「ooつもりがない」、「<動詞過去形>+つもり」等の組み合わせも多く使われているように思い、コーパスでそれぞれの使用頻度を調べてみました。

【3. どのような場面、言葉と一緒に使われるのか確認したかったため】

- (5) 最近習った四字熟語を NLB で検索し、どのような場面、どんな言葉と一緒に使われていると確認したかったです。
- (6) いつもどちらかよく分かりませんから、探してみました。

【4. その他】

- (7) あるとき、仕事で英日の通訳をしていたときに英語の「dilemma」を訳せなくて困ったことがありましたが、調べたらそのままカタカナ言葉になっていました。それでいつごろから日本語に入ったか気になって調べました。
- (8) お正月だから、カルタについて考えました。BCCWJ の少納言をつかって、「かるた」と「カルタ」を探しました。どの書き方がいちばん多いか知りたかったです。
- (9) ニューヨークでは、ハイカラという日本酒バーによく通っているの、言葉として「ハイカラ」が気に入りました。

大きくわけた4つの動機を見ると,NNT ならではの使用動機であるものと,反対に日本語母語話者教師(以下,NT)であっても調査する動機として挙げられるものがあることに気付く。例えば NNT ならではの調査動機としては、「1.母語に日本語に該当する意味がないため」が挙げられる。また,NT,NNTに限らない調査動機としては、「2. 教育上疑問に思っ」「3. どのような場面,言葉と一緒に使われるのか確認したかったため」がある。

また、「その他」の調査動機としては,NNT 自身の生活/仕事の中で気になった言葉を挙げている。コーパスを研究目的のものではなく、「ちょっと気になった言葉を調べたいから」といった,ある意味「辞書がわり」のように考えた NNT もいることを示唆している。

5.2 調査された語

NNT が調査対象として選んだ語は,一語のみを調査対象としたものと,複数の語を調査対象とし,用法や頻度を比較しながら調査したものがあつた。ここでは,前者を単一調査,後者を複数調査と呼ぶことにする。

単一調査では,以下のような語が選ばれていた。

表1 NNT の単一調査で選ばれた語

表現の種類	実際の調査語
副詞的表現	全然(3),なかなか(2),なんとなく(2),とても(2),よく(2),一応,まったく,しきりに,せいぜい,いっぺんに,どうせ,ゴロゴロ,ばっちり,あまり,恐る恐る,せめて,ごく,あつけらかん, 大変
名詞的表現	ストラテジー,おおみごころ,めぐみ,連中,恋,縁,ジレンマ, 食いしん坊,坊っちゃん,いずれ,つもり,無邪気,半信半疑
形容詞的表現	やばい,すげえ
連語	に伴って,いわんばかり,たかが,ながらに,ならでは
動詞	食べれる,行く
形状詞	みたい,大丈夫
連体詞	小さな,たつての
その他	無記入など

最も多かったのは,副詞的表現であつた。その次に,名詞的表現,形容詞的表現と続いた。

次に,複数調査で選ばれた語を述べる。複数調査は,大きく分けて,「表記の違いを比較したもの」と,「類義語の比較をしたもの」に分けられる。以下に,これらをまとめた表を載せる。

表2 どのような語の表記の仕方を比較しているか

・ぶどう/ブドウ	・さようなら/さよなら	・かるた/カルタ
・恐る恐る/おそるおそる	・無線 LAN/無線ラン	・充分/十分
・タバコ/煙草/たばこ	・かつこういい/カッコウいい/格好いい	

表3 どのような類義語を比較しているか

どんな比較か	実際の語
名詞的表現間の比較	<ul style="list-style-type: none"> ・レベル/段階/級 ・ミルク/牛乳 ・つくえ/テーブル ・ストラテジー/方略 ・あけおめ/新年 ・恋/愛 ・キッチン/台所 ・ハイカラ/スマート ・わたし/あたし ・国際/インターナショナル ・普通/通常/普段

動詞の比較	・食べられる／食べれる　・目を閉じる／目をつぶる ・増やす／増える　・食べる／食う　・買う／買い物する ・後悔する／後で後悔する
副詞的表現間の比較	・ふらふら／ぶらぶら　・是非／絶対　・少し／ちょっと ・恐らく／たぶん
連語的表現間の比較	・あまりに／あまりにも　・あいだに／あいだは ・～となる／～になる　・ひょっとして,ひょっとすると,ひょっとしたら／もしかして,もしかすると,もしかしたら
品詞の異なる語を比較	・食べる／食事する／食事　・好きだ／愛している ・要る／必要　・易しい／簡単　・大きい／大きな
その他	・使役受身形とその短縮形 ・使役を使った許可を求める表現　・無記入など

表2,表3を合わせてみると,複数の語を比較する場合,名詞的表現間の語同士が選ばれることが多くなっている。また,同じ品詞同士を比較するのではなく,異なる品詞だが,意味的には類似しているものを比較している場合も見られた。

5.3 調査過程の分析

ここでは,NNT が語を調査する際に,どのようなことを発見し,どのようなことにつまずいているのかについて述べる。

5.3.1 新しい語の用法を発見したケース

NNT が既に知っている語の用法以外の新しい用法を発見するケースが見られた。

- (10) 全く+ない形だけではなくて,全く+動詞　全く+形容詞　全く+副詞といろいろ一緒に使う事がわかりました。いろいろ探したところ,全くそのまま,全く知る,全く痛いなどのような使い方もたくさんあって,私にとっては,初めてです。
- (11) 「大丈夫」の語を探してみました。日常生活で使うときに,ただ「良い」という意味だけではなくて,「要らない」「問題がない」などの意味もあると気付きました。それに,「大丈夫かもしれません」の形も少納言にも出ました。この使い方を初めて知りました。

(*傍線部分,筆者ら加筆)

また,耳にしたことのある語だが,そのレジスターがわかってきた例,また,多様なコロケーションの例から,自分なりに語の使用方法がわかってきた例が見られた。

- (12) 「国際」を検索した所 20395 件だったに比べ「インターナショナル」は 585 件あった。最近ではインターナショナルという言葉をよく耳にするが実際は国際の使用が多いことがここからわかる。ジャンル別に見て見れば「国際」は法律,産業,世界史,経済,政治,新聞,国会会議録,教科書などに多く載っており,「インターナショナル」は主に雑誌,ブログなどの数が多くあった。テレビ番組,コマーシャルでよくインターナショナルという言葉がでて耳に慣れて多く使われている感じがしているが実際は「国際」の言葉の方が重要な場面で多く使われておりまだまだ「強い」と言うことが分かった。
- (13) せめては強い意志を表すときに使うとわかってきた。普通,「ほしい」,「動詞+たい」

と一緒に使われているから。意志だけでなく、反事実的条件文と一緒に出た。具体的に言うと、「ほしかった」、「動詞+たかった」、「～ばいいのに」と一緒に使われた。

以上のように、教科書や辞書だけでは得られない、語の新しい用法を発見する例となっていることが確認された。

次に問題となるケースの3点をあげる。

5.3.2 コーパス利用前に問題があるケース

コーパスを利用する前に、調べようと思っている語自体が誤りの場合が見られた。

(14) 昔は台所、最近ではキッチンのほうが使われていて、今の率はどうでしょうか。

(15) 「ラブストーリー偶然に」という歌の歌詞に「君があまりきれいだから」という言葉が出てきてちょっと面白いなと思った。普通はあまり+否定形と教えている。

上記2例とも、正しくは、「キッチン」「あまりに」であるにも関わらず、「キッチン」「あまり」をそのままコーパスで調べている。調査対象語の記憶が曖昧な場合、そのまま調べてしまうと、当初調べようと思った言葉の意味とは異なる意味を調べてしまい、それを検索結果だと勘違いしてしまうので注意が必要である。

また調査目的と選択されたコーパスのミスマッチの例も見られた。

(16) NLB で「あけおめ」と「新年」について探しました。どうつかうか確認したかったです。

(17) 「食いしん坊」という表現について、興味を持ったので調べてみたら、84件しか出てこなかった。(中略) この言葉はサブコーパスごとの書字形分布では書籍や知恵袋や報紙やブログなどでの使用率が高い、国会会議録や教科書や白書などフォーマルな場面では全然使われていないようだ。(著者注：使用コーパス：NLB)

NLB はそもそも「名詞や動詞などの内容語の共起関係や文法的振る舞いを網羅的に表示できる」(<http://nlb.ninjal.ac.jp/>)ものであるため、上記のような調査に向いているかどうか疑わしい。

以上の誤りの例から、コーパスを用いた授業においては、事前に検索対象語が正しいかどうか、また、その語を調べるにあたって、どのコーパス使用が適切かどうかを確認する必要があると言える。

5.3.3 検索結果の解釈を誤っているケース

調査対象語が正しく入力できても、その後、検索結果の見方が誤っているため、分析を誤るケースが見られた。

(18) 「たかが」という言葉は多くの場合名詞と一緒に使う（「たかが風邪」「たかが愛」「たかが送料」など）。動詞と一緒に使うこともあるが、少納言やNLBの例文を見てみると、その使い方は「知れる」という動詞に限られているようだ。女性より男性のほうが使う言葉だ。

- (19) 調べてみると、「食う」を使う男性が多いと分かった。そして「食う」は現代語だと思っただけで、ずっと前から使われていた。そして、例文を読んだら「食う」は動物などの動作によく使われると気がつきました。

上記2例とも、その調査対象語の使用は男性が多いとしている。しかし、そこまでの情報はコーパスの例文ではわからない。なぜこのような判断をしたのか課題の提出物だけでは分からないが、作者の性別のみを見ている可能性や、会話文の男女の違いを正しく認識していない可能性もある。

また、次のように「タイトル」欄を本のタイトルではなく、言葉の説明だと誤って思っているNNTもいた。

- (20) (省略)「恐れ入ります」の説明に「社会人なんだからこれだけは知らねば」、「気持ちがかきちんと伝わる話し方」など面白く書かれていた。

少納言の場合は、検索画面は「執筆者」「生年代」「メディア/ジャンル」「性別」「タイトル」などの項目数が多く、NNTにとっては情報を読み取るのが困難である。例文の読み取りだけではなく、今回のように、検索結果の項目自体を誤って認識している場合があることがわかった。

5.3.4 レジスターに関する認識における問題

その語が「話し言葉」か「書き言葉」か、またはフォーマルで使用されるかインフォーマルか等、レジスターに関する認識に問題がある場合が見られた。

- (21) 食べれるはまだ話し言葉だとわかった。それから、結果の中で、202件はブログから来たが、10件は書籍から来た。その書籍の中で、「食べれる」は登場人物が言ったセリフにしかなかった。一番古いのは1988年に出版された書籍だった。1件は報告から来た。この報告中でも人のいった言葉に「食べれる」が出た。
- (22) (省略) ウェブでは「テーブル」のほうが多く使われている。たぶん、インフォーマルまたはカジュアルの場面で使いやすいと思う。

前者は、「食べれる」の検索結果中202件がブログからの例であり、また書籍の例も「登場人物が言ったセリフ」の中に使用されており、そのため「食べれるはまだ話し言葉」だとわかった、と解釈している。書き言葉均衡コーパスである少納言を使って、話し言葉か書き言葉かを判断することには、限界があるが、話し言葉的かどうかの傾向をつかむことはできる。少納言の中では、ブログは、話し言葉に近いものであり、書籍の登場人物のセリフも話し言葉と考えることができる。しかし、話し言葉だと断定するには、問題があると言えよう。

また後者の例では、分析者の前提として「ウェブで使用されている語＝インフォーマルまたはカジュアルの場面で使われている」と解釈している点が見られる。

このように、コーパスを使用して分析する際には、語のレジスターに関する知識も必要となってくることが示唆された。

6. 考察

今回, NNT のコーパス使用時の一端を見てきたが, NNT に限らず NT がコーパスを使用する際にも見られる事象もあるだろう。例えば, 先述したとおり, NT であっても教育上疑問に思ったことを調べたり, ある語の使用場面、共起する言葉などの確認をしたい場合にコーパスを用いたりする場合がある。またレジスターの知識や調査対象語と使用コーパスとのミスマッチも, NT が使用する際にも問題となると考えられる。

逆に, NNT ならではのコーパス使用時の特徴としては, 例えば「使用動機」としては, 「母語に日本語に該当する意味がない」時にコーパスを利用する場合がある。またコーパスで検索した結果を見る際に, その情報量の多さ故に検索項目を誤って認識したまま分析してしまうケースも見られた。またそもそも検索対象語を正しく認識していない場合もあった。しかし, コーパスを使用することによって, 対象語の新たな用法やレジスター, またはどんな時に使用するかといったことがわかったという報告も見られた。これはコーパスでの調査が, 砂川(2012)でいうところの「母語話者的直感を補っている」ケースと言える。

このように NT, NNT 両者に関わる部分もあるが, 今回調査した結果, NNT がコーパスを使用する際には, 次のような点を踏まえると良いと考えられる。

- 1) 自分が調査したい語の正しい形を知っているか。
- 2) 調査の動機・内容とコーパスの特徴が合致しているかどうか。
- 3) 検索結果の項目を誤って認識させないような項目の見方の基本知識。
- 4) 話し言葉/書き言葉, フォーマル, インフォーマルといった語のレジスターに関する考え方の紹介。
- 5) 文字列検索であるコーパス (少納言) や NLB の特徴を踏まえて, どこまで分析ができるか。

7. まとめ

今回, NNT がコーパスを使いこなせるようになるには, どのような授業を行えばよいのかを検討するために, その基礎資料として, NNT が実際にコーパスを使用して学習していく際の過程を調査動機, 調査された言葉, 調査過程の分析の3点から見てきた。

コーパスは研究だけではなく, 教育にも非常に有効であると考えられてはきたが, 日本語教育においては, あまりその報告はなかった。本発表の意義としては, NNT がコーパスを使用する際に何を発見したか, また使用した際の問題点の例をあげ, NNT がコーパスを使用する際の授業に対して, その際に注意するポイントを提示できたことである。また, NNT は, 教師であると同時に日本語学習者でもある。従って本発表から得られた示唆は, 日本語学習者へも援用できると考えている。

今後は, 今回得られた成果をもとに, NNT がコーパスを使って, 学習者として自分の日本語力を高めるとともに, 教師としても授業準備に役立てられるような授業を開発していくつもりである。

謝 辞

本研究の一部は, JSPS 科研費 JP17K02800 の助成を受けたものです。

文 献

庵功雄・山内博之(編) (2015) 『データに基づく文法シラバス』 くろしお出版。

- 木田真理(2004)「外国人日本語教師研修における文法授業のあり方-文法シラバス整備に向けて-」『日本語国際センター紀要』14,pp51-68.
- 木田真理・山本実佳(2018)「日本語の分析能力を養う中・上級文法授業の試み-外国人日本語教師研修における実践-」『国際交流基金日本語教育紀要』14,pp35-49.
- 国際交流基金(2015)『2015年度 海外日本語教育機関調査』
<https://www.jpfi.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey15.html>(2018年7月27日確認)
- 鈴木一史(2015)「語彙に着目した学習指導」田中牧郎(編)『コーパスと国語教育』,pp36-50.
- 砂川有里子(2012)「日本語教育へのコーパスの活用に向けて」『日本語教育』150,pp4-18.
- 寺嶋弘道(2011)「日本語教育におけるコーパスの応用-データ駆動型学習とその実践方法の考察-」『ポリグロシア』20, pp91-103.
- 中條清美・西垣知佳子・内山将夫・山崎淳史(2006)「初級英語学習者を対象としたコーパス利用学習の試み」『日本大学生産工学部研究報告 B』39,pp29-50.
- 中俣尚己(2017)『コーパスから始まる例文作り』くろしお出版.
- 西垣知佳子・中條清美・木島綾子(2010)「パラレルコーパスを利用した英語上級者用データ駆動型英語学習の実践の試み」『千葉大学教育学部研究紀要』58,pp279-286.
- 文化庁(2016)『平成28年度国内の日本語教育の概要』
http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/nihongokyoiku_jittai/h28/(2018年7月27日確認)

関連 URL

- | | |
|-----------------------------|---|
| コーパス検索アプリケーション『少納言』 | https://chunagon.ninjal.ac.jp/ |
| 『NINJAL-LWP for BCCWJ(NLB)』 | http://nlb.ninjal.ac.jp/ |